

○13番(川上晋平)登壇 私は、新政会を代表しまして保育行政の充実について、また来年のNHK大河ドラマ「北条時宗」の放映に合わせ開催される中世博多展について質問いたします。

まず、保育行政の充実についてお伺いします。

少子・高齢化、都市化、核家族化や女性雇用就労の増加など、子供を取り巻く社会環境は大きく変化しています。特に、子供の数の減少は子供同士の交流の機会が減少し、自主性や社会性の成長を阻害するなど、子供の健全な育成への影響が懸念されているところであります。そこで、これらのことを踏まえ、子供に関する施策が全市を挙げて取り組まれておりますが、その中で実際に子供を預かる現場の1つであります保育所について質問いたします。

少子化に伴い全国的には児童の数が減少する中で、先日の中世博多展によりますと、福岡市においては就学前児童数は横ばいの状態の中で保育所の入所児童数が年々ふえており、中には希望する保育所に入所できなくて入所待ちの児童、いわゆる待機児童もいるとのこと。考えてみますと、近年の男女共働きの一般化や雇用機会均等法の改正により女性の労働条件にかかわる規制が解消され、深夜の労働もできるようなことになったこと、また労働基準法の改正により、雇用形態の変化が生じたことなどにより、女性の就労の機会が増大化や雇用形態が多様化してきた状況があり、それに伴い保育ニーズが多様化、増大化の傾向をたどっており、保育所入所児童数も増加しているということが言えると思います。そこで、まず1点目は、就学前児童数、申し込み児童数、入所児童数や待機児童数について、現在と5年前と比較してどうなのか、また平成12年度において他都市との比較はどうなっているのか、お伺いいたします。

ところで、これまで国や地方公共団体は保育ニーズに対して認可保育所の増設などで対応してきたわけであり、そのニーズに追いつかない部分を穴埋めする形でベビーホテルを初めとした認可外保育施設が出現してきたわけですが、このような認可外保育施設は保育内容の質や設備の面で問題があるものもあり、死亡事故が起こるなど、社会問題化した経緯もあります。このため、昭和56年の児童福祉法の改正により、認可外保育施設に対する指導が強化されるとともに、認可保育所において延長保育や夜間保育が実施されるようになり、また平成9年の児童福祉法の改正に合わせ、乳児保育の一般化、延長保育、一時保育を保育所が自主的、主体的に行われるように事業の見直しが行われるなど、規制基準の緩和、弾力化が図られました。しかしながら、もちろん、認可保育所の入所児童数もふえておりますが、認可外保育施設の利用児童数は減少していません。厚生省の調べによると、全国の認可外保育施設はここの1月現在で1万174カ所、利用児童数は26万6,000人となっております。3年前の平成9年1月の調査の9,387カ所、約23万人に比べ、787カ所、約6,000人の増となっております。この認可外保育施設を利用する理由としては、時間的な融通がきく、家と近い、土曜、日曜日も預かってくれるなどが挙げられております。そこで、2点目として、多様化、増大化した保育ニーズに対応するため、認可保育所では延長保育はどの程度実施されているのか、一時保育、休日保育、夜間保育についてもその状況はどうなのか。3点目は、本市における認可外保育施設の施設数及び入所児童数は現在と5年前とでどのようになっているのか、お伺いいたします。

次に、中世博多展についてお伺いします。

来年1月からNHK大河ドラマで放映される「北条時宗」では、時宗の生涯を描く中で、幕府が置かれていた鎌倉とともに、当時の博多も舞台の1つとなると聞いております。福岡市はアジア大陸に近いという地理的条件から2000年も前から志賀島で発掘された金印に代表されるように、大陸文化の門戸として、また貿易拠点として発展してまいりました。特に、13世紀当時の博多は日本を代表する国際貿易都市であり、福岡市が目指しているアジアの交流拠点都市の原点であると言えます。その意味から、NHKの大河ドラマの放映に合わせて、福岡市において中世博多展が開催されることは大変意義があることと考えますが、同展が開催される目的は何なのか、お伺いいたします。また、福岡市は同展に1億円の負担金を予算に計上されておりますが、同展の全体事業予算はどのようになっているのか、さらに福岡市の負担金以外の収入はどのように計画されているのか、お伺いいたします。

「北条時宗」の放映が始まれば、全国の大河ドラマファンの注目を浴びることとなり、福岡市にとっても福岡を全国に向けてアピールするよい機会であると考えますが、同展への観光客誘致や同展の運営に関して市民、経済会等との連携についてはどのように考えているのか、お伺いします。

今回のように福岡市を全国にアピールできる絶好の機会はいくらもありません。冒頭にも申し上げたとおり、「北条時宗」の時代は博多が当時の日本を代表する国際貿易港だっただけでなく、元寇という大きな出来事を2度も体験した時代でもあります。このことから、中世博多展は本市の歴史を再発見し、広く全国的に紹介することのできる絶好の機会であると考えますが、市当局においては中世博多展を成功に導くために内外に対してどのようにPRしていくのか、また具体的なPRの目玉となるようなものがあるのか、お伺いいたします。

さらに、私としてはさき申し上げた理由から、できるだけ多くの市民、観光客に見に来ていただき、本市の歴史に触れていただきたいと考えます。そこで、事業収入にも関係する重要な問題ではありますが、入場者数をどの程度見込んでいるのか、お伺いします。

以上で1問目を終わり、2問目からは自席にて行います。

○13番(川上晋平) ただいま答弁していただきましたが、就学前児童数の割合に対する申し込み児童数や入所児童数は確かにふえてきております。その中で、福岡市の保育行政は保育所の入所率が約30%であること、また待機率は2.0%と低いことなど、政令指定都市の中では上位の方であり、一定の評価ができると思います。しかしながら、一方で認可外保育施設が93カ所、入所児童数約1,500人という数は決して少ない数字ではなく、しかも、増加の傾向にあることは間違いのないことでもあります。そこで、まず1点目は福岡市の場合、認可外保育施設の利用の実態について保護者の保育ニーズ、例えば、なぜ認可外保育施設を利用しているのか、認可保育所に申し込みしたことがあるのかなどについてきちんと把握してあるのか、お伺いいたします。

私が思いますに、先ほどの答弁にもありましたように、保育ニーズが多様化、増大化している中で、やはり休日保育は幾らモデル事業といってもまだ2カ所であること、また夜間保育所は延長保育を入れて午前2時まで実施しているにせよまだ1カ所だけ、これではやはり現在の保育ニーズに十分対応しているとは言えないと思います。だからこそ、保育者が認可外保育施設を利用せざるを得ない現実があるのでないでしょうか。ことしの6月の下旬に世間を震撼させた事件が報道されました。神奈川県大和市の認可外保育施設で経営者が児童を死なせた事件でした。しかも、経営者は保育士の数を増した内容で地域の情報誌で園児を募集していたことですが、実際はほとんどがこの経営者1人で児童を見ていたという事実も明らかになりました。市民などの通報により調査、指導の立場にある神奈川県が調査を行い、指導もしていたとされていますが、結果的に事件の発生は抑えられなかったものであります。このように認可外保育施設については認可保育所が対応し切れないニーズに対応している面もありますが、設置の届け義務がなく、行政の目も届きにくいことから、一方ではこのような事故を起こすなどの悲惨な実態もあるわけであり、そこで、2点目ですが、福岡市においては認可外保育施設に対する指導はどのようになっているのか、お伺いいたします。また、認可保育所に対してはどのような指導をしているのか、認可外保育施設と指導内容は違うのか、お伺いいたします。

次に、中世博多展についてお伺いします。「北条時宗」は来年の1月から放映されますが、中世博多展の開催時期は

どのようになっているのか、お伺いします。また、1月からの開催ということであれば、準備期間も余りないのではないかと考えます。そこで、同展の計画の概要と現在どこまで準備が進んでいるのか、その進捗状況についてお伺いいたします。また、中世博多展実行委員会が設立された折の事業計画には13世紀前後の商都博多の歴史、文化の展示やロケ施設の展示等を行うように計画されているようですが、これらを含めた同展の施設規模についてお伺いいたします。

以上で2問目を終わります。

○13番（川上晋平） ただいまの答弁で認可保育所と認可外保育施設の設備や指導基準の違いを聞きますと、やはり子供のためにも保育を実施していくのは当然認可保育所の方がよいと考えます。ただ、先ほどから繰り返になります。が、やはりそのためには認可保育所が現在の保育ニーズにいかにかたえていくか、いかにして認可保育所の充実を図っていくのか、この点にかかっていることは明らかであります。先ほど申し上げましたように、近年の男女共働きの一般化や、また雇用機会均等法の改正などにより、女性の就労の機会の増大化や雇用形態が多様化してきた状況があり、また核家族化の進展など、社会情勢の変化は保育行政にも影響を与えているのも事実であります。以前は児童の祖父母や親族による家庭保育や地域での保育などが多く行われていたのが、現在では保育所での集団保育への比重が大きくなっているわけでありまして。ところで、質問の冒頭で少子化が子供の健全な育成に影響を与えていることが懸念されていると申し上げましたが、この少子化対策の1つとして、保育所が果たす役割ははかり知れないものがあります。例えば、夫婦が第1子をもうけ、その子供の保育所入所に困難をきわめたならば、また子供を産みたいという希望を捨ててしまいかねないと思えます。とどまるところを知らない少子化の進行をとめるためにも保育所の充実は早急に行わなければならないと思えます。先ほどの答弁にもありましたが、休日保育、夜間保育などの実態からして、今の認可保育所が保育ニーズの多様化、増大化に十分対応し切れていないことが認可外保育施設が利用される一因であることは間違いのない事実だと思えます。また、認可外保育施設の実態調査を行っているとのことですが、その調査結果を踏まえること、すなわち、どのような保育ニーズがあるかなどを十分把握することが必要だと思えます。それからもう1つ、待機児童が4月1日現在で459人いる事実や認可外保育施設に約1,500人もの児童が入所している事実は厳然としてあるわけでありまして。

そこで、1点目に認可保育所は足りているのか、新設を考えているのかどうか、保護者が利用しやすい位置にあるのか、この点について実際の調査はされているのかどうか。2点目に入所できない児童の入所を可能にするため、現在の認可保育所での定員増ができないのか。3点目に多様化、増大化した保育ニーズに対応する柔軟な保育の実施が望まれますので、休日保育や夜間保育などについて今後どのように対応しようと考えているのか、以上3点について考えをお伺いしますとともに、今後とも保護者が安心して子供を預けられ、安心して仕事ができるように、安全で、しかも、保育ニーズにこたえられるような充実した保育行政をしていただくよう要望しておきたいと思えます。

次に、中世博多展についてですが、福岡市の観光については都市型観光だけでなく、すばらしい自然や古い歴史を持った都市としてこれらをもっと活用した観光客誘致を図るべきだと考えています。今回の中世博多展は、福岡市の歴史が大きなテーマであります。「北条時宗」との関連で言えば、市内には元寇防塁や蒙古塚などの文化財も残っていますので、中世博多展の開催にあわせてこれらの文化財をPRし、観光客の誘致を図るべきだと考えます。

最後に、私はこの中世博多展はぜひとも成功させていただきたいと願っておりますが、成功に向けての市当局の考えをお伺いし、質問を終わらせていただきます。